



古今  
奇談

萬  
句  
冊  
貳

13  
1804  
2



明へ遠 13  
1804  
E

古今奇談秀句冊第二卷

③ 求家俗説れ異同家此神靈同答の話

播磨國此菟原とも菟茶とも呼ぶ。昔より求家とて三ツあつて同  
 名なり。住吉村なる菟茶津づり鬼伝ともよびて男とす。鬼ハ男れま  
 かつるや。東明村あるハ只妻女家とて味泥村なる妻女家此菟原男と  
 ぞ。其家此味泥の方長く物と俗に車伝りと呼ぶ。馬籠封れなされた  
 るが轆れ家あきハなるん家の置るる東此住吉ハ西面。此の味泥ハ  
 東面して中なる東明此家ハ左右より掛くがや。三家此同お去と各ひと  
 一十数町一家此周廻作各八十間此上は郊あり。上世の唐屋乃  
 荒らるや今あるといふも末代を名顯るくの初あらん。古末文人皆  
 俗説に據て藻を伝。葦れをのうかひをとめれ奥柳と詠しつるこ  
 事古うて物語れ柄となまら。一とセ丹石の中野に其茶なるりの友なる



東州家書賣編卷二

國の伊東に連て高沙北邊を遊賞しぬるがてはこれ中の陵を懇  
勲に招くもろろが忽ち其氏独言常あふんそそれ家慶ハ棄戸の  
地よりそ氏族恩義の外ハあらず。受くる靈社ハ別ふして日成撰て  
神と爲し祭禮と爲し命れ日々おやせ。是は平人の家とさつら。中野を  
言ふ對して云。是如何なるか人の説を聞之我れ知れず。云々。予  
何ぞ人を怒る。云我ハハ男ウ抱るにやうて何ら家れ神なるも始  
ハ稀ハけ家を抱る人あるがぬ。像とされて我任とさつら。先つて遙の  
海島より我を降してかここのそそり。彼祝詞よ云。奥擲ハ饒速日  
命。そ地ハ出子孫我海の伯として家成占め。そ位を認ては守といひ  
住吉と名づけ。國社在す。茅渚の玉出よ向ひて共ハ海の幸成りあり。  
そ遙に祈りて海利をさめ。今ハハ勲傳にせんとして。そ地勢を  
らず。家れ神を請はつてそ地の家成とて山水似る地を撰て經營

を志す者なりと告る。是もまゝ知さるる故。求家といふ類うと。人よ  
接してそ同よ。そ早ねといふ。中野云。さうよ遠と不より。一とびも訪  
来ぞ。祈りて加護をゆるとある。答云。九そ神道ハをさよ。通達あり。流  
れ弘きる不なる。内格子此外よりそ信ハ義とて。内ハ何の足なることさ  
くして靈應あること。そいとくもたよとくれ。今ハ白幣ハ供拍よ。明  
まきと。みわも急田なりの供へて。内帳障る時。神の嘗のすも御し。給ハぬ  
とも。祈り偏よ。定め後人。是即ち神の義。理りよ。そ神を安んず。あ  
れ通なりとす。中野云。神並所。致さどん。ハ後ハ田ハ。郷とて。平地とやなら  
ん。云それ。昭穆のそ急。よいつて。ハそ家とく。おやう。そ業田。其海の變  
土地乃沿革ハ。後を恨む。そ家れ石ハ。縁を。房ら。我の。か。一ハ。俗  
流。まきと。家れ神ハ。い。そ。急。好。う。ん。お。ほ。ご。う。なる。り。の。ハ。妻。野。も。そ。い。志  
らす。あ。ん。靈。並。あり。て。降。す。人。常。よ。結。す。とも。神ハ。特。各。あ。よ。そ。降。ら。め

とがうて地は供をば時うて見え来り独言の意答をあるはうあひて  
我らひようや出ると言おれりよさひ里よりうてんくもかろうぬ  
古きうくに

たまひいをのうさうまかりうよろけ抱ハかうよぞあうさ  
わうてハ声もたう香もなう。つよいそねり流りをとめん。そのまハ色  
財もよめる事をも懐も奥もあうこーみをもさひかざさ。そむじ  
申の家ちうく富うる人。いうなる古法もかぬよ。亭れまがらしてん  
せらる冊子よ。びうーはのほは住る人。一人のちるをよひひとるを  
のこ二人うち志一のまさるよわんととくど。かちちよよさひもせらなる  
んもまう。おとうさく。おやなるのさめうひて。生田川はほるるを誠射あ  
るるよわとんと約さるよ。あうりしてはーちれ及と尾をいうるれハ  
女とひまうひて。名のこ生田川よおちううぬ。あうもはーれよ沈

一人ハ足銭さる一人ハ足銭さうて仲よみさう。男れおやども来り  
て。女の冢を中みして。た右よ二男れ冢を造り。始終ハいつ乃世か  
うりともさざらあう。げ。伊勢乃御のあよ

かげよのこ水れ下よてあひんまよとまなまかう。はうひなるうり  
け客人あす乃行づさる。あほく昔よよ遠なり。隣不者と大悪よ  
はうい

をといやまはるるさる。くの酒むうれをよあう。ばぬり神  
又古き法とらる旅人あがる味泥の家よ。田れ時よちる人よ。同ハ言  
あうー我、いやり。と、いさなひて。怪法さる昔とさうぬ。け那家なる  
庄友の女子。ま女とハいまご人をんごられ名。二七あうずして。国秀れさ  
らえあう。父母秘蔵して。海国びつさすといへども。音よあつて。あも思  
ひてめて。けあよ婿とならんかの家れ。娘よ。ま一人といふ多うまこと。或ハ



○此手名 御座 山



○此手名 御座 山



家門お高らそ人品お厳す。毎月往つて氷れ上下より脱合する人乃  
 種と橋はさうくしたもとあて。礼を載え恥と捨て筆は托へ書  
 よせ。思ひて求るも人のめづれ人ハ見まもて見ずまれ返つてそ抱  
 くらひく。昔よ才子佳人れ常よそくそあふもなまはさうせ  
 りみとさびかかん。いまさうら同城うせうとくならべ。牽も挑  
 もあまを投せざらハ。一日よりうらひなんや。ふ守宮の故事も競  
 ささいぶる城壁と。意とつて影同の表よさうら團風乃涼切よい  
 へす。あるが終なうあどもほらる抱城何そ究るなり。役けて色想  
 親入つて出て同城明て見つ。かよ同ひても見ば一筋ハあじ。いばせ  
 男女の時さうハ好まうらねとて。茅渚れ任吉なる男や女  
 を恋ておらる。許人よあつてて艶をそ返ることきげくなら。元も  
 陰りぢちよ夜さむさ法。菊れ枯枝よはらうて任吉よりと。たぐひとひ

てめれ字も封したる城あつたけ。わささけうすえよをかきぬてつ  
 ころの中よ。ほーさけうすえよをかきぬて。斜よ百をら引る下弦  
 して。筆だてうらひく。身をまうてながらる。これ時陰ハ袖の液  
 れ束の水りさりとまげりし。うさ身なりともたよひてそ。け世ま  
 らで。いつれよふらいととつ。よんよん一峯れまうす。今ハ家身さう  
 けむらぐれ。あすいあうもけむらぐれ。さう信らから流さよほら。碇の  
 漢くずもあられとらんらんか。女も奥にうけひくをいでさけ  
 きハ侍女あけのをえて。一袖れまられの水りさとなる。さハ。信不  
 よけく人あひ。まう雲のぬらうさうらよあうすなん。けちのまがあハ  
 およそそいきて計うて。いそのりすれんるめよ。ほきよの根ま。く  
 ますハ。うらぐれ。山岸よ傍に。あうらうとて。折をさう。みまなんら。お  
 けぐんの下をさう。あう。又よそぬ。壁の枝よつけ。ほーまこのうす

えりよきやう。おいとらう。れんらとどげらう。こりせめよ。のちれらめ  
ハぬきてしそまるしめ。げそたう。ねる色。潔いぬすり。おぼつなくは。  
あはでれらう。のあじとなりても。ありんとす。まう。よまじつ。かひ。お  
こつせ川。源の水尾もたくなば。とねとせなが。一ま。すこそ。女とす。  
いどみ。よう。ごら。されて。まあ。よ。く。よ。と。おま。う。せ。くれ。あ。け。ほ。の。お。う。  
等。と。厭。い。さ。や。川。と。ば。う。み。う。そ。く。ろ。か。く。て。喜。作。さ。す。父。母。よ。中  
て。遠。く。の。吹。ら。な。よ。ひ。く。て。あ。城。の。へ。ん。と。許。し。さ。よ。お。ら。よ。一  
菟原。よ。生。田。び。魚。て。可。ら。庄。日。信。未。那。か。一。婚。を。求。め。あ。よ。取。ま。し。ん。と。懸  
勤。を。は。く。一。告。求。む。満。ち。る。系。の。あ。勢。あ。る。よ。傾。と。て。し。す。め。に。か。く。と。な。ん  
告。る。も。女。胸。さ。い。ご。も。あ。ご。さ。宮。よ。茅。渚。よ。告。知。せ。くれ。わ。う。い。は。え。終  
ぬ。さ。ご。も。先。よ。婿。と。ん。と。言。う。ら。う。る。所。再。ひ。起。して。あ。よ。取。ま。し。ん。と。使。を  
い。く。を。お。い。あ。方。の。切。う。る。求。よ。父。れ。お。い。づ。き。も。ぬ。い。づ。ご。あ。業。と。く

せ。ご。ん。よ。許。さ。め。射。藝。の。競。て。定。め。ん。と。日。城。約。し。生。田。れ。川。よ。一。の  
張。し。て。あ。の。男。さ。き。く。よ。袋。米。一。ろ。と。う。勅。お。ひ。て。水。よ。も。ゆ。り。の  
ぞ。ま。ん。と。ま。じ。り。い。ご。も。ひ。て。務。負。を。試。さ。る。菟。原。れ。男。の。射。の。競。は  
鴨。方。より。右。よ。射。通。して。正。殺。の。矢。目。も。一。ご。よ。茅。渚。の。男。ハ。同。高  
の。ち。を。射。換。して。大。よ。恥。く。思。う。ね。わ。う。た。れ。父。の。御。免。女。と。菟。原  
の。許。し。ぬ。さ。め。女。の。家。よ。あ。う。て。け。務。負。よ。狗。ふ。くれ。茅。渚。れ。ん。と。あ。一。勘  
能。あ。さ。い。の。心。と。か。ち。な。ん。げ。ご。ら。よ。ご。公。城。ゆ。り。目。も。合。ん。ま。ご。と。よ。一。競  
つ。ご。と。ハ。ご。ら。ぬ。ま。け。ぬ。ま。い。と。千。よ。百。よ。念。ご。ら。び。ご。ら。よ。あ。取。れ。子。ま。う  
て。ご。ら。べ。ら。ハ。菟。原。殿。と。務。負。ひ。ぬ。と。中。よ。胸。は。ぎ。さ。む。む。か。な。く。ろ。ち。た。み  
れ。い。ご。と。と。い。ひ。げ。ら。ひ。よ。く。父。よ。侍。て。み。ご。ら。び。競。ハ。せ。ん。と。な。ん  
て。う。わ。ん。と。あ。さ。く。も。公。よ。教。む。父。悔。り。て。う。げ。ご。ら。一。件。し。ぬ。吉。日。を。ら  
ら。ず。告。ん。と。し。ご。ら。女。受。て。我。家。よ。う。衣。引。ご。ら。き。淡。ご。ら。ぐ。が。め。く。そ。の





浮れ男は超て奪ひとんとぶらうを擲せまう。人殺を通り  
 うさせ。獨自一個ひそりに女は許さうらう。障子下よわて。さ  
 すがらけくもい出す。袖はうかしく。始う一月も又ぬとなれを。  
 使女にけなのをかざり障子紙にたてかきしむ。法師傍にありて  
 てきいてととさうす。男は今日内身をさくうらう。むい戸を  
 めんと畏す。法師大に発化て怒るさぬあき。彼男をわあやまう  
 家人ホ肝をひやと。法師居へていし。むい戸はさう。内身海より  
 たうとあふすと。今よりある海陸の言ふくも起んと所。男はそれい  
 うりさひあうらう。薬さう入らう。逐るよいやま。女はそ  
 きい逐る人のさうさうなぢか。うらう。二むたさ。誓の文を  
 今うらう。一段うせめくと。文か。四寶法はわあ。おとさう。人  
 ば。彼男俄に赤面して。二度れ誓約いせぬおとさう。と身を退かう。

女は是厭事より。今うらう。通より。多き。紙探り。知らぬ。おとさう  
 を。紙を強て。乞うらう。是非なく。等。信て。紙を。海。紙。入。ま。い。さ。う  
 る。おの。海。ハ。文。ハ。書。さ。く。似。も。せず。詞。さ。く。つ。う。す。か。ん。も。監。は。う  
 う。ん。ハ。果。く。て。最。初。れ。人。も。あ。う。後。復。は。誰。と。い。う。強。う。は。射。し。使。女。を  
 代。う。て。わ。か。む。さ。や。う。さ。う。か。ん。な。ら。う。と。さ。う。す。ら。の。ハ。技。痒。う。ら。う  
 う。ひ。て。人。は。思。う。ハ。因果の縁と。うらう。さ。う。人。の。多。紙。か。り。ま。う。ひ。て  
 る。文。さ。う。か。り。う。け。た。か。の。誰。ハ。ま。ま。て。あ。う。ら。う。彼。お。ハ。風。流。縁。業。今。や。殺  
 生。よ。及。ぶ。と。種。を。拵。ひ。て。去。う。と。さ。う。ぬ。菓。原。男。ハ。女。と。茶。湯。よ。ひ。て  
 ま。ぬ。と。さ。う。て。サ。す。う。後。那。か。れ。親。を。ま。で。う。ら。う。み。芽。湯。男。が。さ。う。う。ら。う  
 逐。ひ。ひ。て。湯。茶。の。ね。原。う。て。及。ひ。つ。と。仇。を。う。ら。う。眼。ハ。別。さ。う。て。遠。恨。や。ま  
 かつ。や。う。て。刃。傷。よ。お。よ。ひ。お。お。し。て。日。く。蒙。ぬ。薬。此。中。は。代。う。ら。う  
 使。女。ハ。え。さ。う。れ。も。悪。て。文。さ。う。を。自。ら。悔。さ。う。れ。ハ。逐。う。は。任。意。川。





山崎闇斎



山崎闇斎

末裔より浪速此を去るに授て今幸く初は水御を去り海伯  
 長を官居殘玲瓏の御館と稱す。その後宮は吉姫御美因雅と云  
 此恩を水と魚とのみく外は言成進めて政を補ひ内は嬪御を率て  
 和を養ひ下は賑ひよ恩を厚く九ツのツを和納めらん属邑を温徳  
 を被るといへども幸地中を持せらるや天道は昭くや寛政流きて  
 一ツの民を帯りて遠よまより失礼のも多うけきばか長  
 くら菊理の長ありは志謀て云西土の占トれ言よ大久小久を徳と云  
 ますと。君の吉いよ偏みして止るあなく。長は吉い支て支のふり  
 ならざるを勉む。今中道を引ひ仁直は永くせんとする。後宮の柔  
 仁は相合ひひ二柱合舞の遠風一方を宵さごとく長は微忠伸る  
 ことありす。今れ計ハ脚を露を信て梅の時を以て高割を臨んハ  
 りは小竹多の長ハ伶俐をのこりて上園は下まらりし時狭邪の情

を知りしれば今ハそを用て君の顧眄を分らん。世の輕盈婀娜ハ君の  
 左右に充て色校け同衽りの之りハ身を避を品外よめて同秀類媚  
 て容備と修とある。免會の民の家よ子磨脚磨て乳育するを女  
 あり。是須調書と云雲鬢と云束ね淡粧輕抹深固は態格を去り。  
 吹簫歌舞舞琴瑟人を樂する。胎胎の妍ハ雪を糞と記し。侍羅の  
 艶ハ茶の秋を擲る。傲く書い來て登りるよ及んで。香美と抱れ層  
 とせと。拈けハ平四川田は曠るも礼を失い。雅香味味も情よるめ  
 ず。やがて盛よ民同は初りも。び人ハねりも。なごつかりつご云つ  
 びりて名官中よ達と。海伯と云と一いんんとそれども。位階は  
 びりて。みぬめれ浦ハこの名よして。意しる所て。目よえけん九下の羨  
 ませつら。海民の年くは執り浪速の深除ハ七瀬のつたさ。世  
 二つて海濱と云め。例の俳伎とけ日免會を女と飾りて。劇

柝を執るるも玉も中々にけ備人乃弱き等が笛鼓突拍子合せて。御  
 稻舂女好実空哉為妹子之為真妹。又代万載とやわしめてゆく。君  
 微行して一じび見ぬ。よ。我姫を独り絶塵と思つ。今け女を遠く  
 勝せり。乙織女の雲霞離れて。陰らうと雲をひて。宮に還て是を  
 見るも。女も哀れ。懐りてあらず。頻りよるまば。我うごひハ階  
 殿へ上るご。およけ。次といまきて。初こそあられ。頻りて。百りよるま  
 らざ。ハ。礼を犯し公道を止るるも。君の志は。獨りれ。ハ。下司  
 是。我押て。折言殿より。君身ら。除んで見ぬ。よ。誠懃せ。偽の姿  
 よハ似り。せす。勝りて。そ。そ。そ。よ。高知の送。先よ。約。な。り。て。眼  
 け。日。なり。と。や。て。そ。に。お。そ。る。包。り。君。意。懐。て。你。身。れ。困。は。罪。を  
 ち。り。今。日。の。と。生。て。らん。と。と。ち。殺。されん。と。と。よ。女。云。せ。よ。是。は  
 ち。て。ハ。そ。老。の。生。ん。と。欲。し。と。と。と。恐。て。ハ。そ。死。ん。と。を。欲。す。生。

こと殺とハ。君の命より。あつて。日。ら。か。か。づ。ら。不。と。こ。よ。君。い。や。ま。り  
 神。あ。け。そ。の。女。ハ。あ。り。り。と。そ。信。り。宮。内。よ。あ。め。ん。と。と。存。されど。  
 官府の。秘。探。よ。罪。ど。且。彼。を。あ。り。し。て。そ。る。か。よ。送。り。く。し。そ。ね。晴  
 水。宮。よ。召。されて。深。き。な。掎。を。加。へ。い。一。連。三。日。け。よ。こ。り。せ。ぬ。よ  
 是。より。大。な。露。光。を。は。て。日。よ。ね。ふ。卯。宮。ふ。わ。し。せ。所。存。を。そ。方。の  
 徳。長。亦。け。ひ。ま。り。て。君。の。親。近。を。辱。し。群。臣。使。り。致。す。て。遂。に。政  
 を。一。日。し。日。の。非。れ。及。偷。む。ね。濃。く。均。等。乃。令。命。を。及。ぼ。し。ら。る  
 よ。さ。こ。そ。て。后。文。は。名。よ。遠。つ。と。も。い。ま。す。君。の。心。ハ。一。日。より。深。く。なり。よ  
 公。焦。せ。卯。宮。よ。内。館。を。促。し。て。待。ひ。せ。ぬ。と。輪。脊。の。腹。の。後。よ。倦  
 る。む。あ。り。な。れ。ハ。菟。合。ひ。り。女。う。て。毒。ハ。女。よ。あ。り。ず。や。あ。ど。遂。に。及  
 同。よ。及。ぬ。よ。君。も。さ。ず。が。水。宮。よ。脱。圍。ら。る。致。保。り。て。蜻。蛉。の。水。よ。点  
 び。る。程。よ。を。き。た。く。露。光。偏。り。菟。合。ひ。進。む。中。毒。れ。事。ハ。外。よ。不。出。と

いども。姫の戚家陳努れは其夜着て内宮の女を擇りて君に  
此へえぐあるを知ら。后宮より来りて珠をさしむ。是例なきことよわ  
らぬ妃はなよ君公を恨之怨言する時、却て戚の爲に辨るなり。  
々々々々君公内よのせ路り。顔をおしげ菟舎をばてたたよ  
侍せしめ。妃ハ身早て席をさしとをさすして。君のたまよまうせめく  
救日此後よ又はくらすをさしんと云。姫過柔ふして能く言を判ひ  
菟舎を捧てそく侍しめ。所同して君よなす。うかひくれば姫の容  
をみて。是くや羨妙の空を姫くと心中よ怒りさ愛ふ。君の公大よ  
暢て朝のきひ抱めすまで。姫と菟舎と席を促して眠す。是より君  
稀よも内よのせめの時よ。姫ハ避る退るて志さるよ菟舎好愛  
こそをねくのみ。一月の後陳努れは来りてそ中よをさして大よ恨ひ  
又言を述めて妃今より安飾らざ。宛服をさす。素面平服し云

此侍婢と頼りて君よ伏侍しぬ。姫はよほひ入ぬ。バ雅服してそ  
使役をさより外さし。君くれば姫の自ら卑さを憐之。菟舎を  
日く使役強伏けしむ。姫をさすひくす。菟舎を拒てた右よを  
めの中はななり。一月此後陳努のは来りて云。時帝曲水の御遊ちし。  
そ日よいつて妃着衣をさす。新よ裁らるるを服して粧ひ胎澤  
戎施し。はかみ願を下しぬ。と啓す。姫よ喜よいつて新衣清潔胎  
粉芳澤を凝して陳努よいつる内氏隣女をく侍く。妃を我粧着し。屈膝  
て。鏡拭て姫の面上乃濃淡をよし。きよきこれ子よ丹粉浸せを眼  
濃顔のほよ施し。向い座して。お姿をんあげんく。長袖の制時よ  
宵けりと線をおきさう辺を寛く。事已て席をりた右て去。妃  
きてえをん。バ子く奥よりいつて寝よつけ。君事ともん恙と辞して  
えりとなりき。まよびまよび一夜はこれと述く。君押て殿もらん

すもも若くめくして射めくと深くことせり。姫もろて君は礼す。是眼と  
 凝して願賜と異なり。姫は且席向れ洗して倦がめくして宮へ歸る。  
 時うづす君内よ來りて侍て侍人と言ふ。姫は是頃射して入す。  
 宮婢をうて圍と繞しめ君と慰めてやる。次の日まゝ内よ來る。姫を  
 や辞して近へと。ぬら君入ても急りを言ふ。姫は妻己の独眠  
 の智で幽栖常とある。君の左右ハ若く女侍を有りて無之。うづ次  
 とくよははとて。礼を失ふ。言ふ。ふと飛越断る。よ。夜君内  
 よ入て坐して出ず。姫出て款待終る。笑面を聞か。君相押る。及ん  
 で。新見業と調戲がめし。君出んとて。言ふ。入て。姫仰て  
 君誠執視て云。妻之腫を。うろて。是を。及く。と。う。奴。り。さ。う。定。り  
 と。う。い。さ。や。内。宮。久。く。押。は。ど。君。頻。り。辱。し。妻。起。て。酒。箒。を。と。り  
 殿。さ。よ。め。し。て。後。日。を。そ。い。と。降。り。君。三。日。を。治。り。と。年。を。越。る。が。と。入

らせぬひて。致。致。後。宮。よ。免。く。日。法。努。の。隣。女。ま。う。て。け。や。紙。空  
 て。如。く。て。P。妃。ハ。天。統。の。美。質。近。つ。心。を。壓。べ。し。何。ぞ。若。令。女。よ。下。ん。  
 致。ら。く。ハ。媚。道。は。殊。し。貴。人。の。終。は。ら。び。と。い。ふ。も。君。子。は。憐。れ。を。求  
 る。ハ。少。ふ。あ。り。と。二。人。粧。圍。よ。り。う。て。姫。は。あ。り。て。目。を。強。弛。て。人。を  
 視。せ。し。め。て。云。昔。弊。よ。り。う。微。く。笑。ひ。し。め。て。云。屬。類。前。よ。あ。れ。ど  
 好。し。さ。も。ま。さ。ハ。右。よ。ら。む。つ。し。右。よ。ぬ。く。ず。と。秋。の。波。れ。さ。め。見  
 露。の。塵。の。微。く。を。流。し。ま。ぎ。て。巧。を。盡。し。し。好。味。等。れ。ず。ハ。自。ら  
 人。和。あ。り。と。P。姫。も。ま。ま。よ。ま。ぎ。づ。ひ。飲。み。夕。な。凌。を。照。し。て。自。ら。試。し  
 め。ひ。な。若。れ。め。れ。ら。う。御。衛。し。て。君。を。ま。り。つ。れ。ん。昔。よ。ま。ま。う。け  
 せ。バ。君。大。よ。姫。の。赤。恥。と。悦。ひ。朝。笑。等。致。居。り。起。り。離。き。ず。姫。ハ。若。は  
 若。云。女。よ。ほ。く。親。し。と。射。あ。い。ハ。必。ず。並。び。坐。し。て。君。の。席。を。ま。り。と。す。  
 君。ら。ま。も。若。云。女。を。こ。ん。ら。う。魂。と。こ。と。傳。お。の。づ。く。う。別。あ。り。氣。幸。日

妻一匹婢女の群は初よのこ。小竹多れは疲よく千積をきて内宮  
 小人ありたりし。菟舎女は合めて漸くするを托して君のうろたを  
 遠ざかり。おて外宮に居て家より侍て侍御を拜退せしむるも。姫  
 乞をゐめて千存縁を落さず。かくて海伯の五千歳に後信吉姫と菟  
 舎女と常し付ひかろ。今昔さうひよ身れあめは勢氣を法するを  
 この百態の画よかける縁もやりと。姫も新君に侍して侍御後  
 田内は外ふよ成功あるをきて。千存は厚く初ひ。君の家は車  
 二はこれ家を賞すしむる。妾の妻がうろたを。三家若く男を  
 きたり。たわれど馬鬣封ある物いささうの法ならん。或は家の大  
 あり上世に後制祥密なうられあよ。いよ美より媚の人を送りしを  
 右といひたといひてお人の迷ひは枝をるなかりは道  
 古き典侍治子に歌ありきさうしよ

酒ハ飲さきハ碎べう。次借りの乳も内よりとらふあず。色ハ假  
 ぬ也。千人と時と定めが。孟子抱うれば色はあはじ。財とははよ  
 賢思おとあ。皮をさし欲もして。はらもはらも。財を  
 争ひ。氣をそわさして。い。おたを。飢ても。死しても。恨も。不  
 を争ひ。移る。取。堪るも。耐。人の。内。ありて。弱  
 け。惚れ。ひ。く。ら。く。お。此。の。馬。鬣。封。よ。も。も。氣。あ。る。べ。

④ 玉林道人雜談して回頭を屈する話  
 生土を去て因縁地に移り。仕官玉林商賈あり。況て雲儒の樹  
 下石上に定めざる。氣概人は背て悪く受て厭はす。傍傍が。れを  
 却て。や。人。も。殊。勝。あり。又。発。起。た。も。と。ハ。一。ハ。用。さ。ハ。ま。む。ら  
 憂。願。く。な。り。喬。木。は。攀。倚。荊。棘。を。携。ま。ぬ。強。勉。む。も。を。居。さ。ぬ。強。強。狭



くそ。利髪して大事と忘れず、吾らとて去り大波のひぬき  
 大ゆそ一こよあじ。それ人を容ぬよりきを遊するを法号ハ失  
 記する。時の人回改和尚とよぶ。常より不対して回改と改め人感れ  
 て跡より娑婆訶とあぶ名す。実もよく塵情ハ離れ人。仙号礼参  
 の業もえい。清早に室と拂ひ牌を正して向つる。乃爵茶を炉煙  
 此中より幸空。深夜に枕を側て一鼎の沸勃を啜て独坐の況  
 とす。夏あるるか飲の茶よ止る。そより易いとす。はた。室の陟  
 ささた。たた。速なき。少捕持春細川氏友仇。此音同たえ  
 す。是より玉井道人として文学兼て記憶よく。焚香瓶花宴禮茶理よ  
 洩りて。優長なること忙し。世も捨す。後大禪師よ系して大  
 氏を覚悟し。る人あるが。け回改の性急なるを取つ。とてよく對  
 左とれども。ろめて。ろる。まぬ。性。け。常。放言。と。く。東。求。の。備

又做い室とす。よとれ。井田の住ありと。の。極。ハ。尺。より。換。く。と。ぶ  
 う。び。我。身。ハ。高。の。身。う。して。別。色。ハ。能。自。在。と。ゆ。ら。あり。不。勤。の。人。よ  
 ハ。あ。く。と。る。と。う。に。心。我。用。る。ハ。柄。杓。を。執。と。用。の。後。よ。あ。ま。ど。に。仰。て  
 又。も。う。と。う。に。や。の。家。師。あ。る。人。ハ。茶。七。と。不。可。往。と。願。して。是。程。まで  
 又。回。ハ。途。す。か。り。そ。う。往。づ。う。波。の。心。茶。を。幸。耶。と。落。せ。れ。ハ。  
 府。廣。く。手。よ。して。ま。そ。ほ。そ。く。け。心。も。亦。往。づ。う。波。二。つ。も。楞。伽。に。換。  
 ら。れ。ハ。厭。ハ。く。と。そ。常。よ。長。緒。結。づ。ら。ひ。つ。ま。の。こ。と。く。二。三。三。  
 残。さ。や。一。つ。も。る。人。抱。ハ。香。を。焚。て。お。を。や。あ。す。づ。き。禪。床。の。螢。の。光。を  
 を。借。り。て。明。窓。淨。室。と。樂。し。と。浮。世。一。日。の。用。を。ひ。て。ハ。遠。名。し。て。困。苦  
 す。是。ハ。あ。や。ま。く。無。常。衰。盛。衆。よ。う。す。自。ら。與。手。ら。う。人。の。真。と。も。ら。う  
 隠。きて。人。の。事。の。り。と。そ。師。を。さ。く。容。ね。ハ。玉。林。の。人。を。性。急。を。笑  
 ひ。て。皆。乃。理。あり。但。靜。動。淨。穢。ハ。真。よ。引。き。て。厭。ハ。ず。軍。中。の。百。服。十

英州集 續編 卷之二

三



服の茶古く記す。世の俗情ハ悔徹なきもの。いふ幼より欲を止る  
人のちり知づき。一分の見ハ必ず服が替はあらん。和尚も回改らん。  
己も回改らん。と答へらる。時又回改自身ハ真像を自画し。るる。賛  
をさふ。玉林即ち書を

敵打或猥事。稀有化魁魁。自作自己解。狐画不動戲。

そゝる。とまぢ。そと。回改一吟して。服を抱へ。席上。滾び痛めて。  
聖人の邪。あさ。奇なる。ま。謗ら。く。と。何とせん。俗。混。れ。俗。俗。  
もす。素人。授。自。己。此。國。字。解。法。待。も。旁。天。狗。佛。像。を  
虫。し。む。る。も。表。ん。せ。ね。い。徳。ね。俗。も。あ。る。此。聖。人。そ。本。の。あ。り。あ。り。け  
潤。字。ハ。い。ふ。賢。澤。小。中。い。き。を。計。の。飯。を。進。め。んと。云。を。席。上。ハ。百。尺。竿  
改。一。家。と。進。む。と。い。ふ。俗。を。ふ。して。玉林。け。頰。乾。か。く。と。待。ま。す。回  
改。書。す

竿頭濫觴淨妙坊。履回擬寶牛。弱殿豈帝有皮。内有館莫  
作放下。一様看。

是を悟ぶ人もあらん。人を撮るる。ハ。何を。あ。げ。さ。も。自。己。を。か。れ。ず。殊。勝  
此。六。法。教。して。真。如。の。波。れ。起。ぬ。目。も。な。り。と。喝。て。ハ。豆。を。あ。め。ず。脱。て。  
あ。ご。名。の。あ。ま。や。ま。け。う。と。不。と。喝。ま。あ。る。靈。心。の。秘。迹。ハ。内。茶。ハ。契。り  
て。し。と。ハ。面。を。背。く。君。来。ず。ハ。ね。や。も。の。じ。と。か。さ。の。ハ。利益。あり。冥。是  
も。傾。城。を。あ。り。ぬ。ハ。そ。情。さ。ん。笑。米。な。り。さ。ら。ふ。て。も。妓。女。を。抱。き。て。情。け。た。志  
と。ら。俗。英。も。あ。り。し。と。一幅。の。歩。を。練。る。遊。女。ハ。玉林。の。書。を。あ。む。少。猶  
只。ち。一。對。十。二。字。城。添。ら。る

有智去溫柔。多情換孤老。関

回改。去。温。柔。卿。ハ。道。飛。燕。此。故。事。温。柔。の。卿。な。り。と。や。孤。老。ハ。顧。郎。を  
さ。ぶ。し。妓。女。を。遊。婿。を。さ。し。て。云。不。あ。り。去。と。換。ハ。愚。ハ。知。づ。云。温

柔卿弘めて郷の字も用也。僕後ハ人の多く用方々王となつて心  
す人あり。孤老ハ元姻嫁あり。省ははきて孤老の字好く遠ハ多く  
用るは義を奪う。ハ去りて去りてくくくは義なり。換ハ  
狭きハはきまれらあり。回改黙して又一聯を發句して對を待し  
俗中ハ山人あり愚ハ知らず。妙何あり是山人  
耳欲攀高。他力村学認假山人

玉林對して

心要掘藏。自賢財主買假古董

山人ハ隱ノ名と假る君子あり。好画ハ贊つけて賞玩を妨るは  
假山人あるべし。山人ハ一室ハ光あり。おらハハハ對ハ對ハ出と云  
る。一日回改逍遙して少補の鉢ハ待る。近き引て書斎ハ待り書  
童ハ待りて茶果を進む。ハ齋中名人の書画改思は古雅ハ書讀

二百許累ね積む。己ハ主人出て後を交ふ。回改旁を足めぐり云大衆  
此處藏是よかきり。但書籍多持人ハ人ね抱してハ少補云空ハ  
是知言れぬ。掛幅ハ东坡乃書。語ハ西風昨夜過園林吹落黃  
花滿地金。是菊れ向あるべし。いでけ句を對して園風せんとして  
互ハ先を譲る。回改

けさんれハ垣根ハ割ける。芝刈濃きハの風ハ散やそのめはる  
腰ハ割ぬむらりと云。少補ハしてハ調明白なり。但己ハ理窟なり  
重ねのらちハ咲て揺ハ秋ハあまど山風ハ庭ハちる花ハ曇り  
回改云。菊ハ散らぬおら。秋菊ハ落英を餐まるとハ楚辭なる。園史  
ハ花辨結密なまハ庭ハ疏あり。風ハ遇ハ散て地ハ厚  
とあるは。たそちらハ根ハかきめやとよまれ。散らぬねつと何  
らそを香をとつけのり。少補答て。楚辭ハ落英ハ花ハあ

を。菊は葉の合ふべきものありき。先ちうごまぬぐさ。偶々逆へ  
討ちたれとを。まよふとよま。但し開くと。なると。花の初終  
あり。菊は直に教といふ。ぬが安らぐべし。け二句ハ揚州の菊花こそ  
教て地は。ある。五荆公が作と。政陽が知る。で。難せし。り。あつて。強  
ぜし。ら。已よ。そ。洗わ。る。そ。ハ。上。人。の。地。識。た。ま。さ。り。回。政。者。解。て。け。よ  
た。し。と。と。云。少。補。身。よ。ま。よ。し。て。け。列。了。書。樹。の。内。何。さ。な。つ。と。も  
一。冊。と。お。て。用。く。一。の。行。二。三。字。浅。備。し。ぬ。已。曉。よ。そ。句。と。足。す  
づし。回。政。笑。な。が。し。書。童。よ。命。し。て。故。意。と。偶。あ。る。塵。を。積。る。る。之  
房。の。下。より。取。り。め。ま。客。よ。簽。頭。を。掩。て。言。い。し。む。書。童。一。函。を。完  
て。云。と。ぐ。め。な。り。る。と。少。補。云。そ。上。文。ハ。酒。な。ん。と。と。ひ。え。れ。ば。回。政  
云。漱。平。の。記。の。五。節。ハ。勝。撃。は。限。し。保。勢。平。氏。ハ。す。ぐ。月。あ。つ。と。と。や  
され。と。少。補。云。保。勢。四。司。の。記。ハ。忠。盛。ハ。平。氏。と。け。四。人。あ。り。と。云

度の神は一千度集詣して。酒を飲んぬ。二ツの毒を。飲びて。と。と。れ  
と。と。酒。あ。ん。と。と。ひ。え。れ。ば。酢。瓶。な。り。と。と。それ。と。う。目。を。ぬ。ひ。つ。ま。ば。け。く  
ふ。友。階。ら。よ。ま。う。せ。し。と。あ。ん。と。と。れ。と。と。孫。の。世。よ。止。び。と。と。と。と。そ。と。う。の。例  
し。目。出。た。ら。と。と。さ。き。と。と。酒。を。用。ひ。ず。と。と。れ。と。と。回。政。今。一。試。せ。ん。と。と。ひ  
書。童。よ。命。し。て。一。冊。と。お。り。し。む。書。童。補。し。て。云。如。意。君。安  
樂。否。少。補。云。を。執。て。書。と。竊。己。嘆。之。矣。字。教。合。つ。や。回。政。云。思。也。よ  
ハ。野。史。よ。則。天。后。薛。教。曹。沈。お。し。て。如。意。君。と。稱。を。折。く。う。人。を。さ。る。し  
て。そ。安。を。回。し。つ。の。詩。ハ。結。ま。と。も。笑。れ。字。意。属。ハ。ず。と。と。ひ。あ。つ。と。と。と。と。し  
少。補。云。是。ハ。漢。末。拾。遺。あり。靈。帝。の。時。在。武。園。山。よ。酒。と。大。穴。あり。大  
小。二。ツ。の。野。子。は。と。樓。む。は。ら。う。く。愛。し。て。羨。む。人。と。あり。男。子。を。誘。ひ。来  
て。偶。を。な。す。ふ。く。ま。の。め。く。あ。つ。と。と。れ。と。と。と。と。と。と。或。時。劉。墾。と。し。し  
男。子。は。た。が。し。穴。よ。お。し。居。す。女。を。し。て。如。意。君。と。稱。す。二。妓。互。よ

天中... 寶鼎...

出で食を承りて一奴ハ看守して遊去を拒む。後、常として其并開  
 を承りて一奴ハ看守して遊去を拒む。後、常として其并開  
 二乃んで洞外より。必意君安樂ありや否やと問ふ。小奴内より答へ  
 竊て己之を啖りてと云。是よりよりある奴等ハ追ひて嵩山を噪す。樵  
 人志のひ徳てそ詳とて語るとなり。世の拾遺記といひ文逸とて。  
 是董卓曹操をある奴はたとへ劉墾ハ即ち漢の帝位あり。野干ハ狐  
 似て骨本より卵とす。人を食ふといは種類あるべし。必意君乃名  
 を教曹となして則天元年号を必意と改し。狐談ハ高教曹が詠よ。  
 狐長棒槌見の向あるより。大臣の人乃名を教曹とせし。野干なる。  
 回改徳て益蓋の事ハ忘れがし。先生大記憶ありると稱して與  
 より。茶果を吃してゆりまら。幾日つらとて少捕遊獵のゆりて  
 獲らる小倉を尼者提せ。回改の庵よりて息をんと。眠る夜の

うとあり。圃を踏む時。利を思ふるを色んえ。いひ詮の靴を脱し。  
 勝よかき出て突出す。杖鞭うて傷て。是今様の活人詮り。活人集の  
 禿てのよまうねハ片ふれ音もす。百物一止よめすと。便ち安  
 座を回改も詮投てけ。詮は死活の轍ハなり。時ハ發作て腹立て  
 えせねばんが欺侮ぞよ。穢の還らよ。いかに傍家ハと。不言をうし  
 て。此の文法が教出さる。のなり。莫妄想の天定一。云及茶をんせ  
 ぬはをり。情もなり。親しもなる。地球ハ大極の塊ぞがし。何  
 ぞ意も人掌上の珠にして眼中の沙と化んとハ。是定めたるさ。何  
 ぞ下と魚ハ始より苦行いへ交る苦友とて。故あるる茶を吃  
 して厭ず活らと。是まを極ら下も久し。び倍を離る。ご機あ  
 すと云。回改素性粗暴にして。老よ才ある人をんま。ハ。て。聖人  
 といふ。少捕憂さかりて。聖人字はく。信りて。聖言といひて。賢言と



